

地震対応マニュアル

グラッときたら、身の安全！

地震発生



生徒の安全確保

【状況】 震度5以上（歩行することが困難な揺れ）

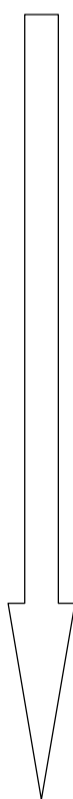
- ◎ 的確な指示、生徒への対応、負傷者の確認、2次災害防止
- 【初期微動】 ○動揺からパニックが起こることもあるので、教室スタッフは堂々と大声で指示する。
- 【本震発生】 ○歩行困難な揺れが1分間続く。
○この間は机を盾に備品の転倒、飛散する窓ガラスから身を守る。
- 【本震収束】 ○本震収束後、余震発生前に、状況を確認し最寄りの広域避難場所へ避難する。

- 教室スタッフの行動**
- ドア、窓を開け避難路を確保する。
 - 生徒への声かけは、大きな声で堂々と→「先生の指示に従いなさい」「机の下にもぐりなさい」「机の脚をしっかりと持ちなさい」など。
 - 落下、転倒物から身を守らせる。
 - 緊急放送があればその指示に従わせる。
 - 負傷者の確認と、その救護をする→「ケガをした人はいませんか、みんな無事ですか」など。
 - 火気の始末をし、主ブレーカーを落とす。

- 生徒の行動**
- 先生の指示に従い、勝手な行動はしてはいけません。
 - グラッとしても、あわてて教室の外に飛び出してはいけません。
 - 地震が起きた時は、机の下にもぐり、身を守りましょう。
 - おしゃべりをしてはいけません。
 - 揺れが収まっても、カバン・座布団などで頭を守りましょう。

【状況】 地震による二次災害が発生したり、その危険が予想される場合（塾長の判断）

教室外への避難、決定と指示

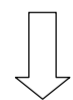


- 教室スタッフの行動**
- 塾長、教室長、またはその代理は教室外への避難の有無を決定し、教室スタッフに指示する。
 - 塾長、教室長、またはその代理は避難場所への経路と安全の確認をする。
 - 屋外または避難所へ避難する。
 - 避難する時の声かけ→「カバンなどで頭を保護しなさい」「〇〇君から順番に表に出なさい」「走らないでください」「おしゃべりしてはいけません」「前の人を押さないでください」など
 - 教室スタッフ全員が連係し、屋外へ出る時は生徒の前後にスタッフがつく。
 - 教室が災害等の危険地域にある場合は、教室以外に指定された避難場所へ速やかに避難する。
 - 避難時は、生徒名簿・講師名簿・当日の時間割表を持って避難する。（予めセットして保管しておく）

- 生徒の行動**
- 避難する時は先生の指示に従って、勝手に「走らない」「しゃべらない」「人を押さない」を守りましょう。
 - 避難する時は、切れた電線や、割れたガラスなど危険な物や場所に近づかない。
 - まとまって行動し、特に指示がある場合を除いて、勝手に走らない。
 - カバン・座布団などで頭を保護しよう。
 - 避難の途中で教室に戻ってはいけません。
 - みんなで協力して、ケガをした人を助け合おう。

- 【避難場所】 ○教室が所在する市区町村が指定する広域避難場所へ避難する。（予め確認しておく）
- 【避難方法】 ○生徒を集め、集団を編成し、その前後を教室スタッフが挟むようにして移動する。
- 【避難経路】 ○教室が所在する市区町村が定めた避難経路、幹線避難路等を活用する。（予め確認しておく）
- 【避難誘導】 ○危険を回避するために教室スタッフの指示に従って行動するよう指導を徹底する。
○生徒が負傷し、その生徒が自力で移動可能な場合は介添え者を決定し指示をする。

避難後の安全確保



避難後の対応決定

- ◎ 人員の安否確認、負傷者と応急処置、生徒へのメンタルケア、負傷者について関係機関への連絡、支援要請、負傷者について保護者へ連絡
○災害時の公的機関の連絡先を確認しておく。

保護者へ連絡



保護者へ生徒の引渡し

- ◎ 保護者との連絡手段、生徒の引渡し方法、教室、避難所などで生徒を保護する際の保護方法など、予め具体的に決めておく。
○日頃から生徒名簿・講師名簿など最新のものを備えておく。
○緊急時は電話が繋がらない状況が予想される為、事前に携帯番号・メールアドレスを取材しておき緊急時連絡先を確認しておく。
- 【生徒の引渡し】 ○状況を判断し、生徒を保護者やその家族に引き渡す。
（引き渡す際は必ず生徒の保護者であることを確認をし、塾長にその旨を報告させる）
○生徒の引き取りが困難な場合も予想されるので、その際は教室で保護する。